

感染症の流行が選手のモチベーションに与えた影響について

1220586 渡邊貴子

指導教員 小林豊

研究背景

2020年に行われるはずであった東京オリンピックが新型コロナウイルスの流行により、延期になったことを受け、スポーツ選手たちは戸惑いや、あるいは大会出場の選考がやり直しになる可能性があるのではないかという不安を募らせていた。また、各スポーツの国外・国内大会も新型コロナウイルスの影響を受け、相次いで中止となった。さらに緊急事態宣言の発令により、プロ選手に限らず、アマチュアの選手や学生も練習をほとんど行えない状況にあった。これらのことから、選手のモチベーションが低下するという問題が発生した。

研究目的

本研究では、感染症の流行とそれに伴う感染対策がもたらす運動部の活動上の制約が、選手のモチベーションに与えた影響を探索的に調査する。調査結果を活用し、不慮の原因で部活動に制約が生じた場合の選手のセルフケアの指針を作ることを狙う。

調査・分析方法

高知工科大学卓球部員を対象として半構造化インタビューを行う。また、各回答者に対して2種類のインタビュー①(回顧録の作成)②(俯瞰的見解の聞き取り)を行う。②では(1)感染対策で覚えていること、(2)感染対策に対して思ったこと、(3)行動・モチベーションに対する影響、(4)部活動の意味とその変化の4テーマについて質問した。これらの回答内容に対してコーディングを行い、図表を用いてコード出現パターンを分析する。

分析結果

インタビュー①では、いずれの回答者も月によってモチベーションが左右したが、大会が無くなった月と、練習ができなかった月にモチベーションが低下するという共通点が見いだされた。また、インタビュー②でも複数の回答者から大会中止によるモチベーションの低下がみられた。一方、モチベーションには影響がないという回答者もいた。

考察・結論

全体的な結果から、大会中止によりモチベーションが低下したことが明らかになった。また、モチベーションが低下したが、個人でやるべきことを考えたことでモチベーションが向上したという回答も得ることができた。この結果を踏まえ、セルフケアには「自分に合ったトレーニング方法を作成する」ことが有効であることが示唆された。また、「卓球が好きだ」「卓球をやりたい」という気持ちを持つ選手を増やすために、卓球部の運営方針を変えるべきだといえる。